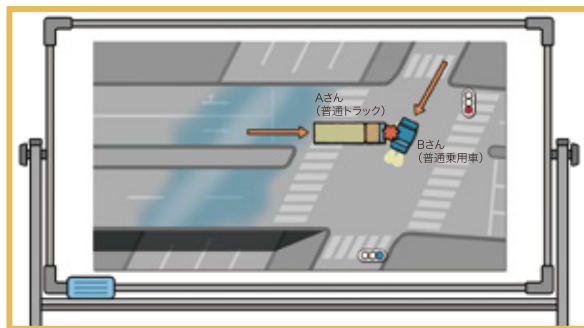


事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役にたください。

事故に  
至るまでの  
状況

Aさん(男性、普通トラック、40代)は、12月の寒い真夜中に、往復4車線の国道を制限速度の時速50キロで走行していました。前方の信号が赤に変わったので、いつも通りブレーキをかけて停止しようとしたところ、その日はブレーキをかけても速度が落ちません。しかもハンドルを切っても真直ぐ進んでしまうという状況でした。急いでポンピングブレーキをかけて何とか止まろうとしたのですが、止まり切れずに交差点に進入してしまい、左から青信号で進行してきたBさん(女性、普通乗用車、50代)と衝突。Bさんは、この事故で顔面に裂傷を負ってしまいました。

事故現場  
略図



## 事故の原因

事故は、路面凍結によりAさんの車がスリップして赤信号の交差点に進入したことで起きたものでした。事故の前日、この地域一帯には積雪がありました。またスリップした信号機の手前の道路は、下に交差

道路が通る橋梁構造になっていて、路面凍結が起きやすい場所でした。その日は、ほかの場所でも同時時間帯にスリップによる衝突事故が起きるほど、地域一帯の路面が滑りやすい状況でした。

## 安全運転に向けて指導のポイント

凍結など自然現象に対応するには、事前に凍結を予測して慎重に運転することで、ある程度防ぐことができます。今回の例では時間と外気温、道路に残った積雪跡などから「今日は路面が凍結しているかもしれ

ない」と予測して、速度を落とすなどの対応をしていたら、対処できていたかもしれません。特に重量が重い貨物車両などは、一旦スリップしたら止めることは困難です。慎重な運転を心がけてください。

## 今月の安全メモ!

- ・冬場の路面凍結は予知、予測で十分気を付けよう!
- ・凍結していると気づいたら、速度を落として走行するなどして対処しよう!